

EMPANADAS 「KEN-YA」

この車、見かけたことはありますか？ 市内4か所を移動し、中南米の定番スナック「エンパナーダ」を販売しています。



市内4か所で絶賛販売中！エンパナーダ販売車の「KEN-YA」

エンパナーダは、中南米を中心に世界の広い地域で親しまれている軽食です。もともとスペインやポルトガルで食べられていたものが広まりました。午後のシエスタ（昼寝）の習慣のある時代に、その後のおやつとして食べていたという説もあります。今回はKEN-YAの佐藤アルミンダさんに、ボリビア風のチーズエンパナーダの作り方を教わりました。

佐藤アルミンダさんには2人のお子さんがいて、それ

ぞれ名前がケンジくん、ヤエミちゃんといいます。そう、店の名前の由来はこの2人です。アルミンダさんはもともと日本国籍の方ですが、ボリビアのベニ州で生まれ、20年前に日本へ戻ってきたそうです。日本にもいろいろな問題はありますが、ボリビアで子育てをするよりもずっと恵まれている、と話します。

アルミンダさんの作るエンパナーダは、生地を少し甘めに味付けしているのがおいしさの秘訣だそうです。この車を見かけたら、ぜひ一度お試しください。

『KEN-YA』の営業日

木曜日：ダイエー宮ノ前店 金曜日：しまむら田村店

土曜日：エスパティオ横内店

湘南ベルマーレホームゲーム開催日：平塚総合公園

お問い合わせ：佐藤さん 080-6801-3127



1 生地をこね、小さく丸めます。生地は、小麦粉、水、塩、砂糖、サラダ油。2 生地を薄く広げ、中に具をつめます。3 ふちを閉じます。指でふちを細かく織り込むか、フォークの先などでギザギザにつぶします。4 油で揚げてできあがり♪アツアツがおいしいですよ！



佐藤アルミンダさんと娘のヤエミさん。

てづくりの楽しさをもっと身近に感じて欲しい、そんな思いで活動しているグループ「Denkarbeit」は平塚市在住、年子の職人4人。つくるものはそれぞれ違いますが、兄弟のように楽しくそして刺激し合いながらものづくりに励んでいます。



長男：水嶋さん(はんこ職人)

長男の水嶋祥貴（東曜印房）は「はんこ職人」。日々はんこを彫り続ける傍ら、全国規模の展覧会への出品や若手はんこ職人を育てる

職業訓練校の指導員も努める。それは全て、職人が彫った本物のはんこをお客さんに手にして欲しいという思いから。



次男：相原さん(革作家)

二男の相原幸雄（IL GRANO）は「革作家」。靴の企画業を経て自分の手の内での生産、お客様との直面販売を志し、革を使っての靴・鞆・雑貨を作っている。GRANOはイタリア語で木目。一つ一つ違う個性のある育ち方をする作品を作りたいという思いで付けた。

三男の一寸木幸平（さすらい商店のらねこ堂／とんぼ玉工房ますぎんち）は「とんぼ玉作家」そして「さすら

いの似顔絵師」。さみしがり屋の1人好き、のらねこ気質の僕はどこに行っても居場所に困る。どこに行っても何だか肩身が狭く窮屈に感じる。自分が堂々と居られる場所は誰かが用意してくれた所ではダメなんだ。



三男：一寸木さん(とんぼ玉作家)

「てづくり」にこだわる 職人グループ Denkarbeit

四男の武富成史（line）は「鞆作家」。過剰な意匠・機能を省いたシンプルなデザイン、流行に捉われないデザインの追求。また流行についていくのではなく変わらない価値を持つ。ものを消費



四男：武富さん(鞆作家)

するのではなく大切に使い続けるというポリシーの元に鞆を製作している。

4人それぞれが持つ、想いや拘りの上にDenkarbeit（mind work＝思案作業・考える仕事）があり、その想いを伝えたくてワークショップと呼ばれるてづくり体験を開催しています。てづくりを通して僕ら4人の「世界」に触れてみませんか？

活動の紹介・イベント情報は下記サイトからどうぞ
<http://www.denkarbeit.info/>